

潮音寺だより

第 260 号
平成 17 年 6 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856
E-Mail:choonji@aichi.email.ne.jp

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1-10-11



煩悩を断ぜんこと
願う。無^む辺^{へん}なれど
誓^{ちか}つては

【出典】
『往生要集』卷上第四
正修念仏第三作願門 他

油絵：小島午郎

あれが欲しい
これも欲しい

それにつけても
腹の立つことばかり

なのに

またやってしまった
どじ 失態

こんなわたしで
いいんですか

いいんです

それが念仏者

ありがたいことです

粗忽惣兵衛

むかし、粗忽惣兵衛という、それはそれはそっかしい男がおりました。

ある日、明日は、朝早くに山の神参りをするからと、女房にいいつけて弁当を作らせ、枕元において眠りました。

翌朝、山へいき神参りをしたとき、あわてて寶錢を投げようとして、財布ごと投げてしまつて、がっくりしよげ返ります。

それでも、いやいや、きつとこ利益があるかもしれぬと、気を取り直して、弁当を食べようとする。それは女房の腰巻に包んだ、自分の枕でした。

おこつた惣兵衛、枕を谷底にぶん投げて、家へとんで帰り、女房をぢやしつける。それは隣の女

房でした。

惣兵衛は、平謝りをし、結局、山の神様でも、惣兵衛のそこは直せなんだぞうな……。

こんな昔話がありますが、まさか、こんな男はおるまいと思つていました。ところがどっこい、なんと、自分の中におりました。

先日、走らなくともよいところで走り、けつまずいて、横つ飛びという感じで転倒をし、アスファルト道路に左顔面をしたたか打ちつけてしまいました。眼鏡のレンズは割れ、恐る恐る顔から離れた手には、血がしたたり落ちました。

近くにいた警備員の方が、救急車を呼んで下さり、病院でもすべ処置をしてもうえ、幸い、骨には異状が無く、一応の安堵はしたも

の、顔面がひどく腫れ上がった、KO負けしたボクサーのようになつてしまいました。三日たった今も、顔に貼り付けてある大きな包帯と、眼の周りの隈が何とも恨めしく、ため息つきつつ、本誌原稿と悪戦苦闘している次第です。

思い起こせば、現任職も、これまで、バイク事故で救急車のお世話になつたことが、一度や二度ではありません。また、脚立の留め金をはめぬままその上に乗つて、自分の重みで開いた脚立に挟まれて、足を複雑骨折したり、常に、小走りしているようなせつかな性格から、これまで、しなくともよい怪我をしたり、思わぬ粗相も多かったのであります。

こんなそっかしさを、自分の親ながら、呆れることも多かった

大乗・小乗だいじょう・しょうじょう

日本や中国に伝わった仏教は大乗仏教であるといわれます。

きた仏教であるといえます。なお、スリランカやタイなど東南アジアに広まった南方仏教

「大乗」の原語はサンスクリット語のマハー・ヤーナで、大きな乗り物を意味します。

釈尊が入滅後、仏教は非常に教理的に

なり、一般の人々には手のとどかないものになりました。これに対して、もつと大勢の人々を、そして自分よりも先に他の人々を救おう、という菩薩行を強調したのが大乗仏教の興りです。

大乗仏教では、すべての人々がブッダ(覚者)になりうる素質をそなえていると考え、一般の人々の側にウエイトをおいてで

住職通信

眠れぬ者には夜は長い
 疲れた者には道は遠い
 正法を知らぬ者には生死のこの世がうとましい



を、自己の解脱のみを求め、利他の立場を欠くとして大乗仏教の人々は、小乗仏教と軽蔑して呼んでいました

が、現在では上座部仏教と呼びならわしています。上座部仏教の人々は、釈尊自らの教説を忠実に守っていると自認し、戒律の数も多く、今も厳しく実践されていきます。

大乗仏教と上座部仏教のどちらがすぐれているか、いちがいには断定すべきものではありません。

（ひろさちや「仏教の百科」）

雑記



▼表紙

小島午郎様から、また今回、ご自身で描かれた、川のせせらぎが聞こえてそうな、すばらしい油絵を頂戴しました。

▼不発弾

近くのマンション建設用地から、不発弾が出てきて、5月28日の午前中、自衛隊が撤去作業を行っています。当口、寺にも避難勧告が出ており、お寺参りは出来ません。よろしくお願いたします。

▼位牌堂

宗祖法然上人八百回大遠忌潮音寺記念事業へのご協力、なにとぞよろしくお願いたします。

▼新緑や大樹を見上げ

深呼吸 沐魚